

式辞

やわらかな日差しの中、木々の芽吹きが始まり、早春の息吹を感じる今日の佳き日、令和4年度 奈良県立生駒高等学校 第58回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことは、卒業生はもとより、教職員にとりまして大きな喜びであります。

ただいま、卒業証書を授与されました344名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を迎えました。

皆さんは、令和2年4月9日に本校入学式を終え、翌日10日は新入生オリエンテーションでした。ところが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による「緊急事態宣言」の発出を受け、翌週の13日からは在宅学習となり、本校への登校ができなくなりました。学習や部活動に熱意をもって取り組もうと大きな希望をもったの入学であったと思いますが、新型コロナウイルス感染症のために不本意なスタートとなってしまいました。そして、ようやく登校できるようになったのは6月になってからでした。インターハイや夏の甲子園大会などが中止となり、それに伴い、県予選大会やコンクールも中止となり、残念な思いをした人も多かったと思います。校内においても、皆さんが最も楽しみにしていた本校の文化祭である桜葉祭や体育大会も中止となりました。2年生に進級してからも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、その年の桜葉祭も開催できませんでした。皆さんには本当に残念な思いをさせてしまい、申し訳なく思っています。

しかし、皆さんはコロナ禍における様々な変化や制約、新しい生活様式を受け入れ、校内で感染が大きく拡大することもなく、本校生らしい堅実な学校生活を全うしてくれました。学習や部活動においても全力で取り組んでくれました。特に部活動では、今年度のインターハイに空手道部、サッカー部、卓球部が出場を果たしました。サッカー部は、初のインターハイ出場を成し遂げました。また、野球部も夏の選手権大会奈良大会では準優勝を果たしました。本校創立60周年の節目の年に大きな成果をあげてくれました。

皆さんは、コロナ禍の中で高校生活を送り、新型コロナウイルス感染症を乗り越えた世代として、これから先、記憶されることと思います。

さて、皆さんが高校生活を過ごしたこの3年間、コロナ禍の中ではありましたが世界的なスポーツ大会、「東京オリンピック・パラリンピック」「北京冬季オリンピック・パラリンピック」「サッカーワールドカップカタール大会」が開催され、日本人選手が大いに活躍されました。皆さんの記憶にも残っていることと思います。

そのような選手の中で、競泳に出場した池江璃花子選手、アイススケートの羽生結弦選手、サッカーの三笥薫選手の言葉を紹介します。

池江璃花子選手は「努力は必ず報われる」、羽生結弦選手は「報われない努力だったかもしれない」という言葉を残しました。二人に共通しているのは、大会に向けて精一杯、できる限りの練習を重ね、やるべきことをやり遂げたという思いだと思います。結果は異なりますが、やり遂げたという大きな思いは二人の胸に残ったと思います。本校のよき校風である「真面目に一生懸命頑張ることが格好いい。」につながるものがあると思います。

「真面目に一生懸命頑張る」ことこそが「努力」であり、その積み重ねが人を成長させてくれます。

また、サッカーの三笥薫選手は、スペイン戦で決勝点をアシストしたプレーを「本当に一ミリだけど、中に入っていれば良いなと思って足を伸ばした」と語っています。これも、本校の校章や校歌にある「檉」の木の精神、「決して途中で諦めたり、へこたれたりしない。最後の最後まで全力で頑張り抜く。」につながります。「最後の最後まで全力で頑張り抜く」という気持ちが最高のプレーにつながります。

皆さんには、「真面目に一生懸命頑張ることが格好いい。」という校風と「決して途中で諦めたり、へこたれたりしない。最後の最後まで全力で頑張り抜く。」という本校の「檉」の木の精神をこれからの人生においても、行動の指針として過ごしてもらいたいと強く願っています。

最後に、皆さんに一つの言葉を贈ります。

「雲外蒼天(うんがいそうてん)」という言葉です。漢字で書くと、「うん」は空の「雲」、「がい」は外(そと)、「そう」は草がむむりに倉と書く、青いという意味の文字、そして「てん」は天井の「天」。意味は、「雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている。」ということから「努力して苦しみを乗り越えれば、すばらしい世界が待っている。」ということを示しています。皆さんの高校生活は、新型コロナウイルス感染症のために様々な制約があり、思い描いていた高校生活とはかけ離れたものになってしまったかもしれません。しかし、やがて人類は、必ず、この新型コロナウイルス感染症を克服するでしょう。人類が新型コロナウイルスに打ち克つ日まで、あともう少し、感染予防に気を付けましょう。皆さんには、きっと、新しい世界、輝かしい未来が待っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。慈しみ大切に育ててこられたお子様の立派に成長されました姿に感慨もひとしおのこととご推察申し上げます。生駒高校での3年間の高校生活を経て、お子様は心身ともにたくましく、頼もしい大人へと成長されました。どうかお子様の輝ける前途を温かく見守り、時には励まし、これからも支えていただきますようお願いいたします。

皆様方には、3年間にわたり、本校の教育活動推進のために、温かいご支援と多大なるご協力を賜りましたことをこの場をお借りして、教職員を代表して心から厚くお礼を申し上げます。今後も引き続き、お力添えのほど、よろしくようお願いいたします。

終わりに、344名の卒業生の皆さん一人ひとりが、それぞれの世界に向けて力強く旅立ち、その前途が洋々たることを願って式辞といたします。

令和5年3月1日

奈良県立生駒高等学校 校長 八重 幸史